

第4回学校運営協議会

下野市立国分寺東小学校会議室

- 1 日時 令和7年2月14日(金)
- 2 参加者 学校運営協議会委員
- | | |
|-------|----------------------|
| 増渕 晴美 | 東方台地コミュニティ推進協議会 |
| 大垣 玉枝 | 下野市国分寺地区主任児童委員 |
| 下山千恵子 | 読み語りボランティア団体「ほがらか文庫」 |
| 諏訪美津枝 | 下野市更生保護女性会 |
| 山家 幸勝 | 元国分寺東小 PTA 副会長 |
| 蓬田 裕康 | 地域代表 |
| 高橋 拓 | P T A会長 |
| 坂本 順子 | 国分寺東小 校長 |
| 青木 正徳 | 地域学校協働活動推進委員 |
- 事務局
- | | |
|----------|------------|
| 司会 軸丸 尚子 | 国分寺東小 教頭 |
| 記録 近江 成美 | 国分寺東小 教務主任 |

3 内容

- (1) 開会
- (2) 学校評価結果報告・協議
- (3) R7学校運営協議会の予定

【学校評価結果報告】

- ・3年間で大きな変化はない。
- ・協力して学習する 児童の肯定的回答多い。
- ・家庭学習について昨年度より否定的回答増加 家庭学習の例を示すなどして児童が取り組みやすいよう工夫していく。
- ・読書について否定的回答が増加 学年が上がるにつれて図書館利用の時間を授業で確保することが難しい。授業前の朝の時間に図書館を利用できないか工夫する。
- ・気持ちの良いあいさつについても否定的回答増加 学校評価の結果を受けて校内では2月にもあいさつ運動を行う 高学年は恥ずかしい気持ちもあるようだ どのようなあいさつがよいのか職員も手本になるなどして取り組んでいく。
- ・登校が不安な児童について教職員が組織的に対応する 外部機関とも連携する。
- ・学校へ行くのが楽しい 否定的な回答が少し増えた 職員も児童の様子を細やかに観察する中で悩んでいる様子を把握しているのでは 日常生活で安心して過ごせるよう気を付けて見守っていきたい
- ・小中一貫教育について否定的な職員の意見が増加 小中一貫教育の取組を見直しながら実感できる取

組を目指したい 中学生との活動が楽しいと回答する児童は多い。

- ・教職員からの意見で総合的な学習の見直しを予定している。
- ・働き方改革については、職員室がよい雰囲気であるが、業務量が多く大変であるとの回答
- ・教職員の健康を大切にしないと児童の教育がよいものにならない 引き続き業務の見直しなどに努めていきたい。

【学校評価結果について協議内容】

【学習・行事】

- ・総合的な学習の内容を見直すとのこと。今やっている学習をよしとせず思い切って見直すことがすばらしい。
- ・授業が楽しい児童もたくさんいるが、分からないと回答する児童も少ないがいる。分からないと自分から言えない児童を丁寧にフォローして欲しい。
- ・行事が楽しみな児童が多い。体験活動もたくさん取り入れてすばらしい。
- ・地域の方と昔遊びの学習をするときの児童がとても嬉しそうだった。地域連携の様子も保護者にも伝わっていることが嬉しい。
- ・音楽でお箏体験授業を行った。外部講師の方が20面のお箏を持ってきてくださった。児童が一人一人体験できありがたい。

【児童・保護者】

- ・家庭において児童の頑張りを褒めたり話題にしたりしているか。学校から児童の頑張りを伝えることがもっとできたらいいのではないか。
- ・保護者に褒めてもらうことが少ない子どもたちではないか。保護者の意識の多様化、忙しさがある。子どもは、家庭で保護者に褒められることがとても嬉しいのに、褒められることが少ない。子どもたちは自分のめあてに向かって頑張っているのに、保護者がそれを感じ取れない。家庭で学校での頑張りが話題にならないのでは。
- ・今の保護者は自分の子どもを叱らない。叱った他人に文句を言う。
- ・保護者には、数値で図る、人と比べるのではなく、褒めて育てることをして欲しい。この大切さを学校から伝えて欲しい。
- ・朝ごはんを食べてこない子どもがいる。そのような子を把握して関わって欲しい。
- ・多くの子どもたちは楽しく登校していると思われるが、なじめない、悩んでいる子どもたちにも気を付けて、目を向けて欲しい。
- ・公園でも保護者、大人はスマホを見ている。もっと児童の姿をよく見て欲しいと感じるときがある。

【読書】

- ・読書についての意欲が低下気味。保護者はスマホをいつも手にしている。家読などの取組を有効に活用できれば。
- ・家庭では習い事等で忙しいことが多い。学校から借りた本は家に持ち帰ってくる。本が好きなのだと

思う。

【家庭学習】

- ・家庭学習協調週間の取組はどのようなものか。(学校での取組を説明) 3校で同じ時期に取り組むことはすばらしい。

【交通安全】

- ・交通ルール。放課後地域の中で自転車に乗る児童の飛び出しが見られる。学校からも安全についての声かけをお願いしたい。

【保護者対応】

- ・担任以外の職員にも相談・声かけできる体制がある。担任の負担も減る。悩んでいる児童・保護者には初期対応が大切。

【教職員の働き方】

- ・働き方改革の実現に向けて今までやってきたことをやめること、見直すことも大切。
- ・職員室の雰囲気明るく親しみやすい。
- ・人として大切なことを教えることに自信がない職員とは、どのような様子か。(若い職員・経験が浅い職員にとって、子どもへの指導に自信がない。自分の経験ではなく授業の目的が果たされることが大切と、学校内で共有したい)
- ・働き方改革。先生方の心身の健康が児童に対する教育の向上につながっている。

【あいさつ】

- ・あいさつの大切さを感じる。恥ずかしい気持ちの児童もいる。保護者があいさつができていないのでは。保護者も自分の身近な人、友達と認識する人だけにあいさつや返事をしているのでは。コミュニケーションが小さくなっている。
- ・TPOに合わせたあいさつができると良い。あいさつの大切さ、学校での取組についてもっと保護者に啓発してはどうか。
- ・あいさつ。登校の時に元気な児童がいるとつられてあいさつができる。コロナ禍により、声を出す経験が少ないのでは。
- ・知らない人へのあいさつはしないと教わった大人達がちょうど保護者世代。安全のためにそのように教育されてきた。学校教育の大きさを感じる。これからは、あいさつを通してコミュニケーションを高める教育が必要。
- ・保護者の中には学校であいさつを指導して欲しいと考えている。あいさつは家庭で身に付けることが基本。家庭の中であいさつを通して言葉の温かさを身に付けて欲しい。
- ・保護者の中にはもっと、周りにつながりたいと考えている人もいる。あいさつを一つの手段にして、人のつながりを強くしていきたい。

【地域連携】

- ・学校支援と地域作り。地域との交流でやるが増えるばかりではいけない。断捨離の考え方も必要。
- ・国東は地域連携の取組をよくやっている。

【令和7年度 学校運営協議会の重点についての提言】

あいさつについて重点的に取り組む

- ・児童主体の取組を工夫していく
- ・中学生とのタイアップができないか模索する
- ・保護者に啓発資料を配付する A4 チラシで 地域にも回覧板などで広められないか
- ・地域との関わりであいさつ運動を取り組んでいけたらいい
- ・時期・期間を決めて取り組む内容を少しずつランクアップするのはどうか（A期 B期 C期など）
- ・キャッチフレーズを打ち出す 分かりやすい言葉で みんなでやっていこうとアピールする